

教材名		『ふるさと山梨』の章・ページ	
昔から大切にされてきたもの 文化財		第3章 P. 62, 63	
教科(領域)等	社会	学年(分野)	3年生

1. 教材のねらいと概要

地域にある昔から伝えられてきたもの(文化財)について知り、地域の歴史や自然環境への興味・関心を高める。「文化財」の説明と県内にある国宝5点とその解説を掲載・県内各地にある国指定文化財の紹介をし、県内には様々な文化財があり、昔から伝わるものを大切にしてきたことを捉えられるようにしている。

2. 活用例

教科名等	社会科	単元(題材)名等	わかるわたしたちの暮らし
活用場面		活用のポイント	
			時間
地域に昔からあるもの調べのきっかけとする。		文化財とはどんなものであるかを捉えさせる。 国宝や重要文化財を知ること、県内には数多くの文化財があり、それを守るために地域の人達が努力していることを捉えさせる。	45分(家庭学習含む)

3. キャラクターの投げかけの意図と解答

ページ	投げかけの言葉	意図	解答例
P. 62 	この鎧が戦いで楯がいらないほど強いという意味で「楯無鎧」ともいわれているんだって。	国宝には様々な逸話があることを捉えさせ、国宝への興味を高める。	略
P. 63 	文化財には、いろんな種類があるんだね。	文化財にはP. 63のように各種あることを捉えさせたい。	略
P. 63 	昔から伝えられたなんて、すごいことよね。	長年にわたって守ってきたことの大切さを感じさせたい。	略
P. 63 	県内各地にたくさんの文化財があります。人々はどんな思いで文化財を守ってきたのでしょうか。第4章の市町村のページも見てみましょう。	文化財は各地域にあることやいろいろな種類があることなどから、地域の人々の思いに関心を持たせたい。また、自分の住んでいる市町村について調べるきっかけとしたい。	略
P. 63 	県内にどんな文化財があるのかわかりましたか。	この節の振り返りとしての投げかけである。県内に昔から伝えられ、守られているものが多数あることを捉えさせたい。	略
P. 63 	自分たちの住んでいる地域にはどんな文化財があるのでしょうか。	発展的な課題として、地域の昔調べにつなげていきたい。	略

4. 写真・資料の補説

(1)山梨県の五つの国宝

山梨県には現在5点の国宝がある。国宝5点について説明を読み、山梨県の国宝について興味をもてるようにしたい。また、解説文は小学生にも理解できるように表記してある。

(2)国指定の文化財

「無生野の大念仏」(無形民俗文化財)、木造阿弥陀如来及び両脇侍像(重要文化財)、旧平田家住宅(重要文化財)、猿橋(国指定名勝)、鳴沢の溶岩樹形(特別天然記念物)、古長禅寺のピクシン(天然記念物)をここでは様々な種類の国指定文化財として取り上げた。文化財に様々な種類があることを捉えさせたい。また、県指定、市町村指定の文化財もあるので自分たちの周囲にも同様なものがあるか、興味を持たせるようにしたい。

(3)みそなめ地藏

本編では市川三郷町の事例を取り上げたが、県内には同じような伝承をもつものが多数ある。地域に残る言い伝え・祭・行事などにも興味を持たせたい。P. 64のお祭り・年中行事への橋渡しとしたい。

5. 参考文献・関連施設等

参考文献名	発行所	著者・編者	発行年
山梨県史 文化財編	山梨県	山梨県	1999
山梨の文化財 国指定編	山梨県教育委員会	山梨県教育委員会	1989
関連施設名	住所	電話	
山梨県立博物館	山梨県笛吹市御坂町成田1501-1	055-261-2631	
参考ホームページ			
山梨県の文化財ガイド(山梨県庁ホームページより)			

教材名		『ふるさと山梨』の章・ページ	
昔から大切にされてきたもの ふるさとのお祭り		第3章 P.64, 65	
教科(領域)等	社会科	学年(分野)	3年生

1. 教材のねらいと概要

地域に伝わるお祭りに関心を持ち、その目的や願いを知る。

- ・県内で行われている著名なお祭り・年中行事の紹介
- ・県内の特色ある祭「道祖神祭」の紹介

2. 活用例

教科名等	社会科	単元(題材)名等	わかるわたしたちの暮らし
活用場面		活用のポイント	
地域に伝わるお祭り等を調べる際の導入場面		山梨県内の祭り行事の紹介を読み、県内で行われている祭り行事への関心を高める。 県内各地で盛んである道祖神祭りが山梨県の民俗行事として全国的にも著名であることを知るとともに、先人たちによって祭りの伝統が守られてきたことを捉えさせたい。	時間 45分

3. キャラクターの投げかけの意図と解答

ページ	投げかけの言葉	意図	解答例
P64 	山梨県ではどんなお祭りや行事があるのでしょうか。そしてどのような意味や願いがこめられているのでしょうか。	課題提示である。この節を通して、山梨県内でどのような祭りや行事があり、どのような意味や願いがあるかを考えさせたい。	略
P64 	いろいろなものがあるね。いつ頃行われているのかな。	県内各地の祭りに興味を持たせる。また、いつ行われているかを調べる活動を通して祭り・行事の持つ意味・願いにも関心を持たせたい。	興味を持った行事を調べワークシートに記入する。
P64 	おみゆきさんでは、おみこしが笛吹市・甲府市から甲斐市まで運ばれるんだって。	おみこしが一宮(笛吹市)二宮(笛吹市)三宮(甲府市)から信玄堤近くまで運ばれることを通して、この祭への興味・関心を持たせたい。	略
P65 	これは、山梨県立博物館にある江戸時代の甲府の道祖神のお祭りを再現した模型です。	江戸時代から山梨では道祖神祭りが盛んだったことを捉えさせたい。また、県立博物館で見学することへの動機付けにしていきたい。	略
P65 	55ページに、このときに飾られていた幕の写真があったよ!昔から道祖神のお祭りはさかんだったんだね。	江戸時代から山梨では道祖神祭りがさかんだったことを捉えさせたい。	略
P65 	これからも地域の宝として大切に伝えていきたいな。	山梨県での道祖神祭りは全国的に見ても特徴のあるお祭りである。地域の伝統として受け継いでいく気持ちを育てていきたい。	略
P65 	山梨県以外でも道祖神のお祭りがあるのでしょうか。	山梨県で盛んな道祖神祭りが他の地域ではどうか調べさせる。	長野県・静岡県・神奈川県・群馬県などでも行われている。各地で行われている道祖神祭りと県内の祭りのちがいを捉えさせたい。
P65 	山梨県内でどんなお祭りや行事がありましたか。また、それらの意味やこめられた願いを知ることができましたか。	これまでの学習の振り返りである。祭や行事がどんなものがあるか、またそれぞれには昔からの「意味」や「願い」があることを捉えさせたい。	略
P65 	自分たちの地域のお祭りも調べて参加してみよう。	児童は地域の伝統の担い手であることから、地域の行事や祭への参加を促すようにし、地域への愛着を高まるようにしていきたい。	略

4. 写真・資料の補説

(1) 天津司の舞

地元では、オテツシさん、デツツクさんともよんでいる。現在は4月10日頃の日曜日 に、ふだんは甲府市小瀬町の天津司社に安置されている九体の人形が、下鍛冶屋町の涼宮諏訪神社へ渡って、境内に設けたオフネとよぶ幕間いの中で田楽芸を演ずる。当日は昼頃から天津司社で神事があり、その後赤布で顔を覆った人形の行列が諏訪神社へと進んでいく。人形が諏訪神社に至る道をオナリミチといい、かつてはほとんどが田のあぜ道だったが、今日この道はかなりの部分是小瀬スポーツ公園の中に入っている。

(2) 十日市

南アルプス市十日市場で行われる。「売っていないのは馬のツノと猫のタマゴ」と言われるほどかつては多数のものを売っていた。代表的なものは白・杵などの木工品である。安養寺の縁日に立つ市。現在は2月10日と11日に行われている。天正11(1583)年、徳川家康印判状写しに「十日市場」の地名があり、天正18(1590)年浅野弾正が出した十日市の押し売り押し買いのろうぜき禁止の写しが保存されている。

(3) 南部の火祭り

富士川河畔の村、または支流の川筋の村では、盆中に「投げたいまつ」や「百人たい」という火たき行事が行われていた。南部町内の数カ所で行われていたそれらの伝統的な火祭りを、町をあげての一大イベントに再編したものが、8月15日に行われる「南部の火祭」である。現在の実施場所は南部橋近くの富士川右岸特設会場である。

(4) 徳和の天神祭

山梨市の三富地区では、天神祭ないし天神講と呼ばれる祭りが盛んである。字間の神祇官原道具をまつる天神任の祭りである。かつては毎月25日に開かれていたというが、いつしか回数が減り、年に1回となってしまったという。今日では、1月25日前後の日曜日に行われている。また、天神祭りといえば徳和のみが知られ、他集落では子供の減少もともなって、自然消滅しつつある。子供の祭りとしての要素が強いが、地域の人々も加わり、ムラ全体の祭りである。祭りを主宰するのは、オヤダマ(小学校6年生)とコダマ(5年生)である。オヤダマの号令で下級生は、ダシの花作り(約2000こ)を行う。オネリ、オトビ(御輿を担ぎ、勢いよく走る)などを行う。

(5)丹波のお松引き

北都留郡丹波山村で行われる。1月7日に各家の門松を払って、それを利用して木ノりの上にダシ(山車)をつくり、道祖神場まで引いていく。1月14日には、そのダシを焼くお松焼きが行われる。お松引きは、集落の安寧と五穀豊じょうを願う行事である。丹波山村の5か所の集落(高尾・押垣外・奥秋・保之瀬・丹波宿)で行われているが、丹波宿のものが、もっとも規模が大きい。お松引きのコースは熊野神社から道祖神場までの青梅街道約500メートル。ヨーイ、ヨイのかけ声で引く。引き手は百数十人にもおよぶ。

(6)藤木の太鼓乗り

甲州市藤木地区で。毎年1月14日に開催される道祖神祭の行事で、上藤木・下藤木・西藤木から広場に集まった三基の太鼓の上でどんどこ焼きの炎に照らされながら地域の人々によって歌舞伎の名場面が演じられる。

(7)牛倉神社祭典

上野原市上野原で行われている。牛倉神社の祭礼として、毎年9月上旬の3日間行われている。須佐乃男命など、秋の実りをもたらしてくれる農耕の五神に感謝を捧げる祭りで、古くから地域住民の信仰を集めてきた。郡内三大祭りと言われ、数十基の神輿が町中を練り歩く。

(8)吉田の火祭

現在は北口本宮富士浅間神社の秋祭りとして行われ、8月26日・27日の二日間に行われる。富士山型の神輿が渡御し、26日夜には、市中に高さ約3メートル、80本ほどの大松明が盛大に燃やされる。翌日の27日は、御旅所から二つの神輿が出て氏子域を巡行し、夜に神社へ還御する。国指定の重要無形民俗文化財に平成24年に指定された。

(9)おみゆきさん

「おみゆきさん」は、釜無川の信玄堤付近で執り行われる川除けの神事で、毎年4月15日に実施されている。御幸祭り起源は古く、825(天長2)年に大雨によって御勅使川と釜無川との合流地点で洪水がおき甲府盆地が水害にみまわれたため、国司が奏上し第53代淳和天皇(786(延暦5年) - 840(承和7年)5月8日から一宮:浅間神社(祭神:木花開耶姫命)・二宮:美和神社(祭神:大物主命)(笛吹市)、三宮:玉諸神社(祭神:大国主命)(甲府市)に勅旨が下され、当時、釜無川と御勅使川の合流地点であった赤坂台地の麓(三社神社周辺)で川除けの神事をおこなったのがはじまりといわれている。神輿の担ぎ手は、女性の恰好をして「ソコダイ・ソコダイ」と掛け声をかけながら渡御していく。明治時代になると浅間神社からのみ渡御がされ神事を行っていたが、平成15年より三社からの渡御が復活した。

(10)祖神の写真

県内道祖神の特徴的な丸石を取り上げている。ほかには石祠・双体・文字碑などがある。

(11)県立博物館模型

県立博物館に展示されている模型である。江戸時代から甲府では道祖神祭りが盛んであり、明治には禁令が出たほどである。

(12)県内各地の道祖神祭りの様子の写真

各地域の道祖神祭りの様子である。ドンドン焼きはマユダマを燃やす。オヤナギなどを道祖神場に作る。地域によっては獅子舞などが行われるなど県内各地域でそれぞれの特色がある。地域の道祖神祭りを調べるきっかけとしたい。

5. 参考文献・関連施設等

参考文献名	発行所	著者・编者	発行年
山梨県史民俗編	山梨県	山梨県	2003
山梨の祭り・行事	山梨県教育委員会	山梨県祭り・行事調査委員会	1999
民俗探訪事典	山川出版	大島暁雄	1983
やまなしの道祖神祭	山梨県立博物館		2005
関連施設名	住所	電話	
山梨県立博物館	山梨県笛吹市御坂町成田1501-1	055-261-2631	